
帰国渡日児童生徒つながる会

第一章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

- ・名称「帰国渡日児童生徒つながる会」
- ・目的

現在、京都府の学校には、国際結婚の家庭に生まれた子どもや、在日外国人、帰国児童生徒などさまざまな形で「外国につながる児童生徒」たちが点在している。そのような児童生徒たちは、言語や文化が違うということから、他の日本人の児童生徒達とのコミュニケーションが上手くいかず、クラスで孤立してしまうことも多いようである。このような児童生徒たちの多くは、一学年に一人、あるいは数名しかいないため、普段お互いに出会う機会を持つことが少ない。そのため、共に出会い、活動を通して、同じような悩みを抱える人がいることを知り、その悩みを分かち合える友達ができること、また、一人一人の個性を尊重し、自分自身や自分のルーツに自信を持ち、彼ら自身がその国の言語や文化を大切にできる場を提供することを目的として、2006年度より e-project を利用し、活動し続けている。

つながる会の活動は、基本的に3か月に1回のペースで行っている。それぞれの活動で、同じような内容をおこなうのではなく、季節に合わせた活動や、また来たいと思ってもらえるような活動を目標に、毎週1回ミーティングを行っている。また、長期休暇期間の活動では、より多くの子どもが参加できるよう、京都市、宇治市、八幡市などの小中学校にむけ活動のチラシを配布し勧誘をしている。

また、大学生の生活を体験したいという子どもの声を踏まえ、食堂、体育館などの大学内施設を利用し、活動している。さらに今年度より、新型コロナウイルスの影響により中断していた大学外での活動も行った。今年度は京都市動物園への遠足を行った。

2. 代表者および構成員

・代表者

秋山大誠 社会領域専攻 2回生

・構成員

小栗沙和子 理科領域専攻 4回生

松本翔太 技術領域専攻 4回生

山川ゆうり 数学領域専攻 4回生

天野小春 国語領域専攻 3回生

大野遥菜 国語領域専攻 3回生

香出海音 発達障害領域専攻 3回生

合田悠姫 国語領域専攻 3回生

辻朱花 国語領域専攻 3回生

佐藤翔梧 社会領域専攻 2回生

村古珠乃梨 社会領域専攻 2回生

岩井愛子 社会領域専攻 2回生

大木康久 社会領域専攻 2回生

是枝己咲子 社会領域専攻 2回生

達脇萌 教育学専攻 2回生

堀尾泰伽 英語領域専攻 2回生

3. 助言教員

浜田麻里先生〔国文学科〕

第二章 内容や実施経過など

1. 7月の活動について

5・6・7月 活動内容の考案

7月上旬 準備、直前ミーティング

7月7日 活動日

12:00 学生集合

13:00 子ども集合

13:00～ 自己紹介レクリエーション
(猛獣狩りゲーム)

13:30～ 勉強会、または七夕工作

14:30～ レクリエーション

(風船リレー、
アルファベット神経衰弱)

16:00～ アンケート記入、写真撮影

16:30～ 子供解散→片付け、学生反省会

18:00 学生解散

2. 8月の活動について

6月上旬～ 活動内容の考案、準備、
チラシ作成・印刷・発送

8月7日 直前ミーティング

8月9日 活動日

9:00 学生集合

10:00 子ども集合
10:00～ 自己紹介レクリエーション
(サイレントゲーム)
10:30～ 勉強会
11:30～ 昼食
12:45～ 体育館にてレクリエーション
(9マス鬼ごっこ、ドッジボール、
紙コップ積み上げゲーム)
14:15～ 教室レクリエーション
(魚釣り、綿菓子づくり、
ボール投げ入れゲーム)
15:00～ かき氷作り
15:30～ アンケート、写真撮影
16:00～ 子ども解散→片付け、学生反省会
18:00 学生解散

3. 10月の活動について

7月中旬～ 活動内容の考案、準備
8月6日 動物園へ視察
10月15日 直前ミーティング
10月20日 活動日
8:30 学生集合
9:30 子ども集合
9:30～ 自己紹介レクリエーション
(気持ちを合わせてハイタッチ)
10:00～ 動物園へ電車を使い移動
11:00～ 昼食
12:15～ レクリエーション
(クイズラリー)
14:30～ 写真撮影、大学へ戻る
16:00～ 子ども解散→片付け、学生反省会
17:30 学生解散

4. 12月の活動について

10月下旬～ 活動内容の考案、準備、
チラシ作成・印刷・発送
12月17日 最終ミーティング
12月22日
8:45～ 学生集合
10:00 子ども集合
10:00～ 自己紹介レクリエーション
10:30～ 勉強会
11:30～ 昼食
12:45～ 大学グラウンドにて
レクリエーション
(ひつつき鬼ごっこ、
ドッジボール)

14:00～ 工作(ふくわらい)
14:30～ おやつ作り
15:30～ アンケート、写真撮影
16:00～ 子ども解散→片付け、学生反省会
18:00 学生解散

5. ヒューマンフェスタ京都2024への参加 11月24日(日)

京都テルサにて開催された、ヒューマンフェスタ京都2024に参加させていただいた。このイベントは、参加者が人権について気づき、考え、行動につながることを目的として開催される総合的な参加体験型のイベントであり、今回のテーマは「みんなで考えよう～つながり支え合うために～」であった。つながる会としてブースを出展、活動をより多くの人に知ってもらえるように活動を行った。また、他の団体のブースや活動を見学し、学生の子どもに対する声掛けの重要性や今までとは違ったアプローチなど学ぶことができた。

6. 結果や成果など

今年度の活動は、昨年度に引き続き初参加の子どもが多く来てくれた一方で、何度も参加してくれる子も増えたように感じている。これは、学生が毎回の活動で工夫を凝らしたレクリエーション等を考案することで子どもたちが楽しい経験をすることができたためだと考える。実際に、参加した子どもが学校に戻り、学校の先生に「楽しかった」と伝えたり、次は友達を誘っていきと言っていたりしていたといった声もいただいている。また昨年度の反省を生かし、子ども同士の関わりをより増やすことを意識して活動することができた。今までは同じ学校の子同士や、何度も来ている子同士で話していることが多くつながりの輪を広げられていなかったが、今年度はこちらでグループを作り、学年や学校に関係なくかかわることができるように工夫をした。その成果として、活動中の子どもたちの会話が増え、より活気のある活動を行うことができたと考える。今までよりも活動日が増え、学生も少ない中ではあったが、役割分担をし、学生同士が支えあいながら準備をすることで準備期間が短い中でも質を落とすことのない活動を行うことができたと考える。さらに、ヒューマンフェスタへの参加で、活動に理解を示してくれる方、興味を持っていただく方に出会えたこともあり、自分たち

の活動に対し自信を持つことができた。

7. まとめと反省

活動を重ねるごとに参加してくれる子供も増えてきたことで、学生の人数不足を感じるようになってきた。今年度は、新入生の勧誘が思うようにいかず、一回生の参加がほとんどなかった。来年度は新入生の勧誘にも力を入れ、今後も長く継続していけるようにしていきたい。

今年度の反省としては、つながる会の存在がまだまだ知られていないということだ。京都教育大学近郊の小中学校だけではなく、わたしたちの声が届かないところにもニーズがあるということが現場の先生方からの声を通して感じられた。今現在声の届いていないニーズにどのように対応していくか、今後学生を中心に検討していきたい。また、各活動内容に参加してくれた児童生徒の声を十分に取り入れることができていないことも課題である。文化の違いや発達段階を考慮したとき、児童や生徒の声を取り入れることは難しいことである。しかし、参加してくれた児童や生徒は「次はケーキをつくらしてみたい」「今度はサッカーをしたい」など学びを次につなげる声をかけたり、アンケートに書いたりしてくれている。そのため、児童や生徒の個性も尊重できる活動内容を検討していきたいと考える。これらを実践していくためにはより具体的な年間計画や準備が求められる。今年度は、昨年度の反省を踏まえて活動場所や目的を明確にして活動を実施した。来年度は、これに加えて、具体的な活動内容やその活動から予想できる児童生徒の反応について年間計画を決定する際に検討して臨みたいと考える。

8. 今後の展望

近年の活動では、学校の先生や保護者の方が活動を見学されることも多くなってきている。子どもたちにとってもよい思い出になる活動にすることはもちろんのこと、見学されている方にも普段とは違う姿を見てもらえることができると考えている。そのため、子どもたちの魅力や良さを引き出すことができるようなプログラムを今後も検討していきたい。

また、活動の知名度をさらに広げていくため、広報活動にもさらに力を入れていき

たい。

次年度以降も、外国にルーツを持つ子どもたちの安心できる場所であるため、学生一丸となり頑張っていきたい。